

市街地に囲まれている普天間飛行場では、1つの事故が大惨事になりかねず、早期の閉鎖・返還が求められております。

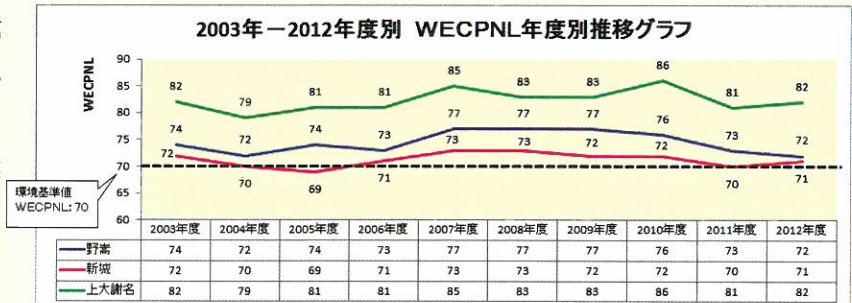
【平成25年の普天間飛行場所属機による事故】

発生日時	事故内容
平成25年2月5日	MV-22 オスプレイ（普天間飛行場所属）による飲料水ボトル落下事故
平成25年2月20日	CH-46（普天間飛行場所属）がハードランディング
平成25年4月2日	AH-1（普天間飛行場所属）による燃料キャップ落下事故
平成25年4月16日	CH-53E（普天間飛行場所属）がハードランディング（機体は炎上）

●騒音被害

普天間飛行場周辺では、年間2万回前後の騒音が発生し、市民は日常的に航空機騒音にさらされています。また、夜間・早朝の時間帯における騒音被害や、飛行騒音だけでなく基地内で行われる長時間のエンジン調整音やホバリングによる騒音も深刻化しております。

本市上大謝名地区では、毎年環境基準値を大きく上回る騒音に晒されており、平成24年度は1年間のうち200日以上もの日数で環境基準値が超過するという厳しい現状にあります。



●地デジ受信障害

地上デジタル放送への完全移行後より、米軍機飛行に伴う電波障害を訴える苦情が急増しており、市の要請を受け国による対策事業が一部地域で行われたものの、約900戸（約2,000世帯）のみを対象にしたものであり、市域の大部分は未だ対策が行われていない状況となっております。

●環境への影響

戦後、環境へ影響を及ぼすような事案が報告を受けているだけで27件発生

近年では、燃料（JP5）流出が目立っています。米軍内で発生した燃料流出等の事故は、事故発生後数日経過してから市や県に報告があり、市や県が土壌サンプリング調査を行うことは認められておりません。

また、宜野湾市の地下には普天間飛行場の下を通り市西側へ流れる多くの水系があると言われており、市西側を含む民間地への影響が懸念されております。

●道路交通網の遮断による経済的損失及び地域振興上の障害

普天間飛行場が宜野湾市の中心部にあることから、公共施設の整備をはじめとする都市計画の決定、執行はもとより周辺集落間の道路交通網が遮断され、均衡のとれた土地利用と街づくりが出来ない状況にあります。また、同施設は那覇市と沖縄市を結ぶ都市軸上の中心に位置し、中南部都市圏の都市開発整備を図る上からも障害となっております。